

請願第 14 号 布袋駅東複合公共施設の愛称を市民公募にすることを求める請願書の採択に賛成の立場で、日本共産党議員団を代表し討論します。

請願趣旨にあるとおり、布袋駅東複合公共施設は、約 45 億円もの市民の税金を費やして整備する市民の財産であり、5 年 10 年などではなく 80 年 90 年、あるいは 100 年もの長きにわたり末永く市民に利用してもらう市民の施設です。

市民、特にこれから江南市で成長していく若い人たちからも愛称を募集し、関心をもってもらい、自分たちが育てていく施設として意識を高め、多くの市民が施設に愛着がわくようにする必要があります。布袋駅複合公共施設は、「にぎわいの創出」という目的もあります。なおさらのこと、愛称は、市民公募を考えていただきたいと考えるのは、当たり前です。

4 月オープンした古知野北部地区複合公共施設の名称は市民公募で「古北にじいろ会館」と決定しました。こうほう江南 2 月号で大きく紹介されており、布袋駅東複合公共施設も、古北にじいろ会館のように、愛称の公募があるものと思っても不思議ではありません。

請願の委員会審査の折には、「気持ちはわかるが、請願を出すのが遅すぎる」との意見がありました。しかし市民に対し、布袋駅東複合公共施設のネーミングライツパートナー募集を周知したのはいったいいつでしょうか。

初めて市民が知ったのは、広報こうなん 5 月号の議会のような小さな記事にすぎず、本格的に知らされたのは 6 月号の「ネーミングライツパートナーを募集」の記事です。

これに驚き異議を唱える市民が、最速で議会に請願を出そうと準備をし賛同者の署名を集めて、この 6 月定例会への請願提出がやっとのことだったのです。「請願を出すのが遅すぎる」という意見は、この経緯をご存じないからではないでしょうか。

わが子が生まれた時、親は、子どもの名前に精一杯の親の願いを込めます。どんな人間に成長してほしいか、どんな輝かしい人生を歩んでほしいか。名前は、単に一人一人を区別する記号ではありません。

意見陳述で請願者から、安城市の図書館に「アンフォーレ」、江南市と同じように、図書館、子育て支援センター、市民活動センターが入る複合施設である、塩尻市市民交流センターには「えんぱーく」の愛称が市民公募でつけられたことが紹介されました。

特に、塩尻市の「えんパーク」は、全国各地から公募で寄せられた中の 6 つの愛称候補の中から、市民の投票で「えんぱーく」を選定しました。

えんパークの「えん」は円（丸い円）、縁（ご縁）、塩（塩尻の塩）を意味し、市民みんなが輪になって、塩尻市を盛り上げ、縁を深めていただきたいという思いが込められています。

「ぱーく」には、公園のように誰でも気軽に立ち寄れる施設であってほしいとの願いが込められています。ひらがな書きとなったのは、親しみやすいようにとの思いが込められています。

布袋駅東複合公共施設の愛称を、市民公募する意義は、市民の新しい施設への願いを集め、市民に愛着をもってもらい、親しみをもって多くの市民に施設を利用してもらえるようにすることにあります。市の予算全体から見れば、わずかな金額の命名権料と引き換えに、せっかく

のチャンスを逃してしまうのは、あまりにも残念です。

ちょうど、明日 30 日の全員協議会の議題に、「江南市立図書館のロゴマークを市民投票で決定したいとの指定管理者 T R C からの提案について」が、あります。

新しい指定管理者として T R C は、新図書館が多くの人に親しみを持って利用していただけるように、ロゴマーク候補作品 3 点ほどの中から、**市民の投票で**選びたいとのことです。

ロゴマーク一つにさえ、市民の願いを込めることが大事との指定管理者の考えは、当然ではないでしょうか。

まして巨額の税金を投入する、江南市の南の玄関口の江南市の新しい顔となる、布袋駅東複合公共施設です。いまからでも愛称を、市民公募で選定するように方針を変更していただきたいと思います。この請願採択への賛同を、心からお願いして討論とします。